

『 VTS 東京ギャザリング 』 報告レポート

渡川智子

日時：2011年9月23日（金・祝） 午後3時～5時

会場：seat mania(シートマニア)、東京・渋谷

ゲストスピーカー

岡崎 大輔 氏 （ステップ1 & 2 参加者）

小笠原 啓一 氏（ステップ1 & 2 参加者）

参加者

セミナー受講者・関係者 9名

博物館／鑑賞教育関係 研究・実践者 5名

東京ギャザリングのはじまり

連続セミナーヴィジュアル・シンキング・ストラテジー（VTS、以下VTSセミナー）ステップ1の受講者の方とACOPオブザーバーの平野智紀さんが主催する「VTS東京ギャザリング」が東京・渋谷で開かれた。この会は主催者2名が、主に関東在住でVTSセミナーステップ1を受講した方、あるいは対話型鑑賞の研究をしている方に声をかけていき、ステップ2の内容、VTS・対話型鑑賞について皆で話し合うというものだ。関東の博物館教育関係者、研究者が多くそろう、豪華な顔ぶれの会となった。

会場は、国内外の有名なデザイナーたちの椅子がずらりと揃う、seat mania というおしゃれなカフェ。はじめにステップ2受講者である小笠原さんと岡崎さんからの報告、その後全員でディスカッションという流れでこの会は行われた。

ゲストの話・ディスカッション

小笠原さんからは、VTS セミナーに受講するにあたった経緯、ステップ2での作品選び（シークエンスの作成）の難しさについてお話があり、さらにファシリテーターの中立性の保持に言及、パラフレーズとコネクトの恣意的な側面を指摘した。また、ステップ2をとおして周りの受講メンバーから「変わった」と言われるようになったことを気恥ずかしそうに打ち明けていた。

岡崎さんからは、VTS セミナーでの経験を生かした、勤務先の企業における実践についてお話いただいた。問題解決のプロセスや根拠が語られることが少ない企業において、理由付けの習慣を疑似体験するVTSが、企業内における人材育成に役立つと感じ、昼休み時間を使って対話型の鑑賞を行っているそうだ。今後もさらに発展していくそうで、この実践取り組みは、会参加者のみなさんも非常に興味を持っていた。

お二人からの興味深いお話の後は、全体ディスカッションが行われた。まず話に挙げたのは、小笠原さんが言及した、ステップ2でのシークエンス作成について。どのような

作品を用いたのか？美的発達段階の設定は？なぜもめたのか？など、次々に質問が飛び交った。小笠原さん、岡崎さん、ステップ2参加者（2名）を中心に、それぞれのグループ内でどのような議論が行われたか、どのようなシーケンスを作成したか、どこでもめたのか、など、詳しい説明が補足された。アート作品ではない対象（サイエンス、歴史的資料等）での実践も例に上がり、対話型鑑賞に向けた作品、不向きな作品、作品の難易度の高さなど、作品選びについて様々な問いが生じ、議論は難航ぎみだった。

次にフィリップが強調するファシリテーターの「中立性」についての話に。小笠原さんはファシリテーターが中立であるということに疑問を持っていたそうだが、ステップ2のセミナー期間に伊達さん（アート・コミュニケーション研究センター研究員）と議論を交わし、ファシリテーターが中立であることはあり得ず、だが、中立でないことを自覚したうえで、自分がどの位置にいるかを認識することが中立とつながる、という言葉をもらい、この疑問にたいして納得したそうだ。

VTSでは中立であることを強調しているが、ACOPは恣意的な面がある。今回の議論のなかでもVTS的、ACOP的、アレナス的、といった言葉が頻出しており、それにより議論、各々の思考に多少の混乱を来していたように感じた。ステップ2ではVTSとACOPの違いについてのレクチャーがあり、そこでも様々な意見や疑問、納得や葛藤が生じていたように思うが、この会においても各々まだまだ思う所が多く、消化不良を抱えていたように見受けられた。人数も多く時間も限られていたため、徹底的に議論を深められなかったのが少々残念だった。

ギャザリングをとおして

今回議論となった話題をそれぞれ十分に深められたとはあまり感じられず、参加者各々にもわだかまりが残ったかもしれない。また、ステップ2のセミナー内容やスケジュールなどを全くアナウンスしていない状況で小笠原さん、岡崎さんのお話に入ったので、セミナー内容の詳細が不鮮明のまま終始話が進んでしまっていた。会が終わった後に、まずステップ2の内容をしっかりと知ることが、という声もあがった。そのような前提共有の不足が議論の深まりを少し阻んでいたかもしれない。

だがVTSセミナーが引き金となり、様々な人のなかで、対話型鑑賞に対する疑問や関心、熱意がいっそう増大しているのは確かだと感じた。人のつながりや対話型鑑賞の可能性も、これからどんどん広がっていくのだと思う。楽しみだ。会の終わりには、早くも次回開催の日取り調整が行われた。東京だけでなく、関西・九州支部での開催兆しもあるそうだ。今回話し尽くせなかったこと、それぞれが更に考えたことなど、今後ますます熱を帯びながらギャザリングは深化していくだろう。